



観光まちづくり最前線

No.9

地域を歩くレポート

合併地域の旧地域境に 新しい魅力を発見!!

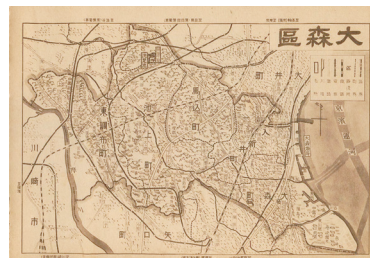
～地域のむかし(過去)といま(現在)から市町村合併の、その先を考える～

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

謹賀新年。「地域を歩くレポート」、今年も宜しくお願い致します。さて新年最初はインバウンド客をターゲットとして国際観光を進める東京都大田区を訪問地として、合併地域の新しい魅力発掘の視点を考えてみたいと思います。

□大田区の今を歴史からひも解く。。。

大田区は、1947年3月、これまでの東京35区から23区に整理統合された際に大森区と蒲田区が合併して生まれた区です。大森の「大」と蒲田の「田」を1文字ずつ取って大田と名付けられました。群馬では著名な太田ではありませんのでくれぐれもお間違えの無いように…そんな大田区ですが合併から68年が経っているのにも関わらず、旧大森区と旧蒲田区では未だに地域色に違いが見られます。古くから大森は海苔養殖で、蒲田は町工場で栄えたという経緯の違いもあるのかもしれませんが。そこで我々は、地域ごとの個性に着目し、両区境の地域に何かヒントがあると思ひ、現在の地図と当時の地図とを手掛かりにまち歩きに出かけることにしました。



旧大森区の地図(上)と旧蒲田区の地図

□新たな発見も!? 区境まち歩き

旧大森区と旧蒲田区の区境の違いを見いだせるか。まず、旧区境であった約2kmコースの旧呑川緑地の探索から。県境や市区町村境には川があるというイメージが強いですが、ここにも川があった痕跡を発見。1970年代後半には埋め立てられてしまったようですが、川の痕跡を遊歩道の程よい湾曲と地形の微妙な変化にみることで、川が流れていないのに橋が架かっている等、興味深い光景が見られました。

区境西側のエリアは住宅街が多く立ち並んでおり、いまでは過去の面影は残されていません。区境の一部に比較的道幅の広い道路があり、昔の地図と照らし合わせると水が流れていた跡だということが分かりました。これは多摩川を起点に現在の大田区南部を横断していた六郷用水の跡であることが判明。用水路でこちらも旧呑川と同じで現在は埋め立てられてしまいましたが、道幅の広さから元々用水路があり水が流れていたことを伺えます。そして、区境の周辺を歩いてみると旧蒲田区側に町工場があるのが印象的でした。これぞ「下町ロケット」。特に武蔵新田駅周辺には突出して町工場が多く点在しており、年に一度おたオープンファクトリーという町工場見学をメインにしたイベントも開かれます。



水は流れていないのに橋が!

□各地の旧市町村境をこれからに生かす

今回のまち歩きを含め、大田区は、旧大森区と旧蒲田区の異なる特色・個性が暮らしの風景として残っているまち。風景は時代とともに変化しても、心意気は暮らしの中に依然として地域の記憶として留められています。

1999年から始まり、2005年にピークを迎えた「平成の大合併」では多くの市町村合併や、隣接市への編入が進みました。しかし、合併が行われたとしても現在の大田区と同じように旧市町村にはそれぞれの特徴・個性が残っているはず。平成の大合併が落ち着きを見せてから5年が経ちましたが、それらが引き出せていない新市もまだまだ少なくないと思います。そこにある地域の記憶を辿り、旧市町村の地域個性・魅力を、互いに認めつつ共に売り出すことによって、それが新たな地域個性の発見・魅力向上に繋がるのではないのでしょうか。
(片岡諒+深津・中川@墨田・大田グループ)



写真右側の歩道を六郷用水が流れていたようです



大田区には町工場がたくさんあります